

コロンビア月例報告（6月分）

外政・内政状況

2011年7月
コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 5月31日 第二回コロンビア・米ハイレベル対話（於：ワシントン）
- 10～12日 潘基文国連事務総長のコロンビア訪問
- 14～17日 オルギン外相のベルギー訪問
- 22日 モレノ・チリ外相のコロンビア訪問
- 22～23日 第1回中米治安戦略支援国際会議（於：グアテマラ）へのサントス大統領出席
- 28～29日 ウマラ次期ペルー大統領のコロンビア訪問

【内政】

- 8日 モレーノ・ボゴタ市長の職務停止に伴うロペス市長の就任
- 14日 オカンポ元外相の逝去
- 23日 国連薬物犯罪事務所（UNODC）によるコロンビアにおけるコカ栽培に関する2010年白書の発表

II 外政

1 第二回コロンビア・米ハイレベル対話（於：ワシントン）

5月31日、ワシントンを訪問中のオルギン外相はクリントン国務長官と会談し、客年10月以来第2回目となるハイレベルの政策対話を行った。同政策対話では、民主主義、人権及びグッド・ガバナンス、エネルギー、経済及び社会の機会、環境保護及び気候変動、文化及び教育の5つの議題が扱われた。

2 潘基文国連事務総長のコロンビア訪問

10～11日、潘基文国連事務総長が、コロンビアを公式訪問し、サントス大統領の犠牲者法署名へ立ち会った他、メヒア新南米諸国連合事務局長（UNASUR）との会談等を行った。潘基文国連事務総長は、ハイチ、リビアをはじめとする中東諸国での危機的状況が発生する中、非常任理事国としてコロンビアは重要な貢献を行っており、サントス大統領とオソリオ国連代表部大使のリーダーシップに敬意を表したいと述べた。

3 オルギン外相のベルギー訪問

14～17日、オルギン外相は、FTA交渉を含むEUとの関係強化のため、ブリュッセルを訪問。ファンアッケレ・ベルギー副首相兼外相、ピエバルグス欧州委員会開発担当委員、パローゾ欧州委員長らと会談を行った。

4 モレノ・チリ外相のコロンビア訪問

21～22日、当地を訪問したモレノ・チリ外相は、オルギン外相との間で、戦略的連携につき交渉。8月16日、サントス大統領がチリを訪問し、本件に関する覚書に署名することとなった。両外相は、この他、コロンビアのAPEC加盟や電力市場の接続等について話し合った。

5 第1回中米治安戦略支援国際会議（於：グアテマラ）へのサントス大統領出席

22日～23日、グアテマラにおいて、第1回中米治安戦略支援国際会議が開催され、サントス大統領が出席した。同大統領は、麻薬を含む組織犯罪対策は一国で行えるものではなく、

グローバルな問題として、主要麻薬消費国である米・欧も協力すべきであると主張、また、コロンビアのこれまでの経験を踏まえ中米地域を支援したいと述べた。

6 ウマラ次期ペルー大統領のコロンビア訪問

28～29日、ウマラ次期ペルー大統領のコロンビアを訪問、サントス大統領と会談し、エネルギー市場統合等について話し合った。サントス大統領は、軍事面、治安面及び社会経済面で、両国が関係を強化することについて関心があると述べ、7月28日に行われる大統領就任式には、オルギン外相と共に出席することを約束した。

Ⅲ 内政

1 モレーノ・ボゴタ市長の職務停止に伴うロペス市長の就任

8日、サントス大統領は、職務一時停止処分が続くモレーノ・ボゴタ市長にかわり、PDA 党首であるクララ・ロペスをボゴタ市長に任命した。ロペス新市長は10日に就任、透明性と清廉さの確保を誓った。同市長の任期は、8月3日までであるが、現在行われている捜査状況次第で12月まで延期となる可能性がある。

2 オカンポ元外相の逝去

14日、1984～86年の間、外相を務めたアウグスト・ラミレス・オカンポ氏が、心臓発作のため逝去した。同人は、ボゴタ市長及び経済発展相を歴任した。

3 国連薬物犯罪事務所（UNODC）によるコロンビアにおけるコカ栽培に関する2010年白書の発表

23日、国連薬物犯罪事務所（UNODC）コロンビア事務所は、コロンビアにおけるコカ栽培に関する2010年白書を発表。UNODCは、1999年より、衛星画像解析によるコカ栽培モニターを実施、2001年より、コロンビア全土においてモニターを行っている。同白書によれば、2010年12月現在、32県のうち23県において、合計62,000ヘクタールのコカ栽培が確認されたものの、2009年に比して、11,000ヘクタール減（マイナス15%）であり、統計を取り始めて最も少なくなっている。

（了）